祐天上人の木像

大正大学教授　玉山成元

祐天上人は、享保三年（一七一八）七月十五日に逝去された。そのとき祐海上人は、大仏師竹崎石見を呼び出し、祐天上人の肖像を彫るように命じた。石見は十数回彫りなおしたうえ、半年かけてみごとな祐天上人像を彫みこんだ。さすがにこの肖像は祐天上人に生き写しであった。あまりにも似ているので、世間では、祐天上人のすべてを知りつくした祐海上人の作といっても不自然ではない、という噂まで出たほどである。祐天上人の肖像につけられている袈裟の模様は、過日上人が江戸城の大奥で、天英院に血脈を授けられたとき、天英院からお礼としていただいた袈裟の模様を写したものである。また座布団も、天英院からもらったもので、紺地に金襴の模様の入ったそれを写したものである。これらはいずれも祐天寺に什宝として残されたものであった。

祐海上人は、この肖像を作るときから、すぐにでも明顕山祐天寺という寺名を申請し、そこに祐天上人の御廟を作りたいと考えていた。そして、もしこの名前が許可されなければ、自分は往生しないつもりでいた。だから祐海上人はこのことを書いて肖像の胎内に納めた。しかし新寺を建てることは不可能の時代であった。けれども祐海上人は、どうしても師僧祐天上人の名前をつけた寺を建立し、その恩に報いると同時に、多くの人々に結縁をさせ、祐天上人の帰依者を極楽に往生させたい、と考えていた。こうした止むにやまれぬ思いで過していた祐海上人は、祐天上人の逝去後すぐと申請をしたが、規則は規則、どうにもならなかった。そこで祐天上人に深く帰依していた天英院や月光院に頼み、やっとその目的を達することができた。こうして祐海上人は、自分も間違いなく往生することができる、といって喜んでいる。現在、祐天寺本堂の中央に安置されている二尺三寸の座像がこれである。胎内には祐天上人の六字の名号やご両親の戒名なども納められている。『明顕山記録』によると、祐天上人の肖像を作る噂を用いた松姫（光現院、前田吉治室）は、自分が施主となって上人の肖像を作りたいと申し出た。しかし祐海上人は、祐天上人は祐天寺の開山上人であるから、弟子である自分が作りたいと主張した。ところが信仰心の強い松姫は、どうしても自分に作らせてほしいといい、奥女中のかねを使いとして、早々に手紙にそえてお金をとどけでよこした。ここまでされたら祐海上人もどうすることもできず、松姫の申し出を拒むことができなかった。

享保四年正月十五日、祐天上人の入寂された麻布竜土の庵室に、みごとに彫られた祐天上人の肖像が運ばれた。そこで祐海上人は、増上寺三十八世演譽白随大僧正を招いて導師を願い、円竜上人や吾水上人らが役僧をつとめ、法類一同が集って開眼法要を行った。もちろん松姫の名代の奥女中も出席したに相違ない。

ところで祐海上人はじめ、弟子や法類の多くは、祐天上人の肖像が一つしかないのは心細いと考えていた。その考えは後世の人々も同じであった。とくに祐天

祐天上人の木像

大正大学教授　玉山成元

寺六世祐全上人は、何とかして本堂に安置されている肖像と同じものを作りたいと長い間考えていた。ところがなかなかそのチャンスがなかった。ある日のこと、府中六所明神の境内にあった千年もたつという古木を入手することができた。そこでこの木を彫木とし、かねてからの願いを成就することになった。寛政八年（一七九六）九月六日、祐全上人は仏師竹崎石見に彫刻を依頼した。半年後の寛政九年四月七日にみごとな肖像が完成し、祐天寺に運ばれた。たまたま四月八日は開山祐天上人の誕生日である。ご縁の不思議さに感謝しながら、住持の祐全上人はとりあえず自刃で開眼供養をし、胎内木地より作った札二千余枚にお名号をしたためた。おそらくこのお名号が、祐天上人像の分身として、法類や善男善女に配られたことであろう。同年の七月七日、祐全上人は、幡随院観菩上人をはじめ、法類一同を招待して、正式に開眼法要を行った。

これ以前にも祐天上人には肖像があった。一つは正徳三年（一七一三）に京都の仏師七条左京が、祐天上人七十七歳の喜寿の姿を写して彫刻されたものである。この像は祐天上人ご自身が開眼し、増上寺の開山堂に安置した。その後、天明七年（一七八七）七月十二日、祐全上人や霊巌寺祐水上人はじめ、法類の人々が集まり、報恩のために修補している。このとき祐全上人はその記録と、お名号を胎内に入れたというが、明らかでない。

もう一つは京都百万遍知恩寺にある像である。これは正徳二年の冬、竹崎石見が彫刻したもので、最初に試みとして作られたものという。水冠は金襴で織り格子になっており、七条の袈裟は、茶地に唐草や桐葉をおいた模様が描かれている。この像は、寛政五年七月五日、登巌寺祐水上人が百万遍知恩寺五十四世として入山したとき持参されたものという。以来「厄除名号」の祐天上人像として、京都の人々の信仰を集めている。

この他にも祐天上人の菩提寺であるいわき市最勝院の本堂に安置されているもの、あるいは祐天上人中興の板橋専称院に安置されている肖像など、規模は異なるが、それぞれ特色やいわれを持つ肖像は多い。くわしく調査をすれば、かなりあると思われる。それほど祐天上人は人々に親しまれ、そのご利益が現在に生きている。